

スーパービジョン 実践事例の書き方

「対人援助者監督指導・演習（研修3～5日目）」では、事例をもとに検討を進めます。「実践事例の書き方（両面）」をよく読んで、検討したい事例の概略をまとめて提出してください。

※ 提出された事例の中から研修で使用する事例を選ばせていただきます。
選ばれた事例は、他の追加書式の作成を依頼することもありますのでご承知おきください。

事例検討・事前学習の勧め

- * これまで実践にあたった現場での事例において、クライアント（利用者、対象者）への理解の仕方や実際の援助方法、援助者である自分とクライアントとのかかわりなど、援助実践や業務過程の中で、戸惑いを感じたり、気にかかったりしている事例がありましたら、文書にまとめてみることをおすすめします。
- * なるべく詳しく記録された方が事例を提出する前の気づきや発見が多いと思います。さらに、自分自身の援助で気になった点については、クライアントと援助者（自分やスタッフ）及びその場に立ち会った関係者との間に生じたやりとりを、逐語記録で記述されると、洞察を深めるのに効果的です。逐語記録により、援助コミュニケーション技術の向上を図る上での実践的効果も増します。

注）逐語記録とは、言語（会話）や非言語（態度、表情や仕草など）を通じてのコミュニケーション場面を、①事実経過（観たまま、会話そのもの等）、②（記録をまとめる者自身の）感情や意図、③（クライアントの）反応、④周囲の様子や場面について、時間経緯に従って詳細にまとめた記録のことです。単なる会話のやりとりなどをまとめた記録は「会話記録」と言い、逐語記録とは区別されます。

まとめる上での留意点

- * プライバシーの保護を優先します。ただし、事実経過が歪んでしまわない範囲で、当事者が特定できないよう配慮を行います。
- * 事実（誰が見ても間違いの無い客観的なものと、特定の人が受けとめた主観的なものとがあります。）と主観的観測（憶測や推理・推測を含むもの）は区別して記述するように心がけてください。情報も、当事者から得た情報と関係者から得た情報は、区別しておく必要があります。また、表現や記述においても、ありのまま記載することが望ましく、要約や自分の解釈を挟んでの記述は区別して別記します。（例えば、括弧書きや記号をつけての記載など、本文と分けて表記します。）
- * 主語を明確にする。誰が誰に対して、何を・いつ・どのように行ったのかを分りやすく記述してください。
- * スタッフ間での方針、カンファレンスの内容、援助方針、アセスメント情報については、可能な範囲でできる限り記載してください。また、個人の判断やその場での意見・考えについても同様です。
- * クライアントの様子を詳しく記述しましょう。

提出資料の形式

次頁の「まとめる形式・項目と内容」を参照の上、A4版用紙に、手書きではなくパソコンで、各自で自由に作成してください。文章量は、おおむね**ワード原稿（40字×40行）で4～6枚程度が目安**ですが、事例の内容や経過によって異なりますので、必要に応じて増減して結構です。特に気になっている場面や検討したい部分を重点に、各自の判断で工夫して構いません。

まとめる形式・項目と内容

1 提出者自身のプロフィール

所属機関の概要、普段の業務、実践内容、提出者の立場、職務など、実践現場を理解する上で必要な情報をまとめてください。(箇条書きでも良い。)

2 タイトル

必ず表題(タイトル)をつけてください。

所属機関名、役職、保有資格、主にどのような仕事を担当しているのかまとめてください。(箇条書きでも良い。)

3 提出理由・事例選出の理由

なぜ、多くの実践事例の中から、この実践事例を選んだのか。事例選出段階での選出方法や選択理由(条件や内容へのこだわりなど)、また検討したい内容を記述してください。

4 事例の概要

事例全体を概観しての、おおまかなあらすじ、クライアントの置かれている状況が分かるような要約・ダイジェスト情報などをまとめてください。

(1) クライアントの基本情報

これまでに把握してきているクライアントの情報、クライアントを理解する上での基本的な情報をプライバシーに配慮しながらまとめてください。

(2) 援助開始までの経過と開始時の状況(事前情報を含む)

援助者自身のかかわりが始まった経緯や、初めて要介護者や家族等の利用者に出会った際の様子などを、できるだけ詳しくまとめてください。

(3) 初期段階の援助経過

①紹介経路・援助開始に至るまでの経緯、事前情報、依頼や引継があった内容などを記述してください。

②初回面接時の様子(利用開始時の様子、クライアントとスタッフ間の様子及び提出者がかかわりを始めた段階での様子)、このときに把握された情報、クライアントの印象、初回のアセスメントの内容・援助目標や方針・援助計画などを記述してください。インテーク面接やアセスメントは、初回の1回ですべて実践されているとは限りません。初回時の到達点、その後の課題や、追加把握の必要な内容についても記述してください。

③初期(インテーク段階)に確認されたクライアントに関する基礎情報を記述してください。(先の(1)事前情報と重複している情報も簡素に記述してください。)

④今回の事例提出段階で把握されているクライアントに関する情報を記述してください。(特に、先の(1)及び(3)③と相違・変化、追加している情報を中心に記述してください。)

⑤当初段階のアセスメント及び援助(支援)計画の内容を記述してください。

(4) 上記(3)以後の援助経過、対応や事実経過

必要に応じて、時系列的に要約記録・逐語記録等により記述してください。事実経過だけではなく、援助者側の判断やアセスメント、印象等についても記述してください。

(5) 家族の状況の情報資料(図式)

現在のジェノグラム(家族の構成、家族の状況、家族歴など)、エコマップを描いてみてください。

(6) 検討したいコミュニケーション場面の内容

今回の機会に検討したいと感じているコミュニケーションの場面、これまでのかかわりで気になったり悩んだりしているコミュニケーションの場面について、会話記録や逐語記録を交えてまとめてください。(別紙1参照)

5 考察・まとめ

この事例を自分なりにまとめてみた結果、気づいたり発見したりした内容を記述してください。さらに、事例検討において、どのような点を皆に検討してほしいか、何を問いかけたいかなどをまとめてください。

事例検討シート

実践事例の書き方例

1. フェースシート
2. 経過記録
3. 個人が特定されないよう最大限の注意を払う(倫理的配慮)
4. 事例のまとめ方

1. フェースシート

・生年月日、年齢、家族構成、経済状況、心身の状態、使用しているサービスなど現在の状況と、生活歴や病歴、職歴などそれまでの生活状況などを簡潔に記載する。

2. 経過記録

・日々の実践の記録を経過記録の形へ落とし込む際には、まんべんなく全てを記載するのではなく、メリハリのあるまとめ方を意識してまとめる。

・長く関わったケースでは、いくつかの時期に分けて整理して記載するなど工夫し客観性を担保する。

3. 個人が特定されない最大限の注意を払う(倫理的配慮)

・個人をアルファベット記載する場合はそのまま直訳して記載せず、A・Bなど特定化できない記載方法とする。

・個人の職歴や家族の職業、資産、疾病(希少難病など)、生年月日、年齢などの様々な情報からクライアント(利用者)や家族が特定されることがないように、個人情報取扱ガイドライン(厚生労働省:「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン」)の内容に留意し、最大限の配慮を行いながら事例を作成する。

・社会資源の記載も、地域に限定されている資源や事業所等は配慮し内容を損ねない範囲で加工する等工夫する。

・市町村名、希少な場所等についても配慮を行う。(M市、O市、U市→松山、大洲、宇和島市と判定できる×、1箇所しかない大学病院なども判定できる)

4. 事例のまとめ方

・文体は、すべて「である」体とする。「(だった、した、行った、)」は可。「～だ」という止めは使用しない。

・事例のタイトルは、何をテーマに、どのようなことを伝えたいのか、報告を聞く参加者に一定のイメージをもってもらえるように設定する。

・「主観と客観」、「話し言葉と書き言葉」を使い分け、「誰が見ても同じように事実を捉えることができる」、「普遍性がある」など一定の水準で読み取れる内容にする。主観的な記載は、支援を通じてどのように感じ、考えたか、支援者として気になる事はどのようなことなのか、支援者としての思いや推論など専門職としての経験から導きだされたものであることが証明できるように意識した内容を記載する。

・支援者の働きかけによってクライアント(利用者)に対し、どのような介入を行ったかを具体的に明記し、クライアントの状況に変化があったのか、なかったのか、その働きかけにどのような意図があったのか、なぜそのような働きかけをしたのかも明らかであれば記載する。(介入できなかった場合も同じプロセスで思考する)

・最後に書く、まとめる作業の中で、自らの実践を客観化し振り返ることで得られた「気づき」を記載する。

事例検討の場合の年齢記載は、実年齢78歳→70歳代後半と記載する。なお、SV事例検討いづれにしても個人が特定されないよう配慮を行う。

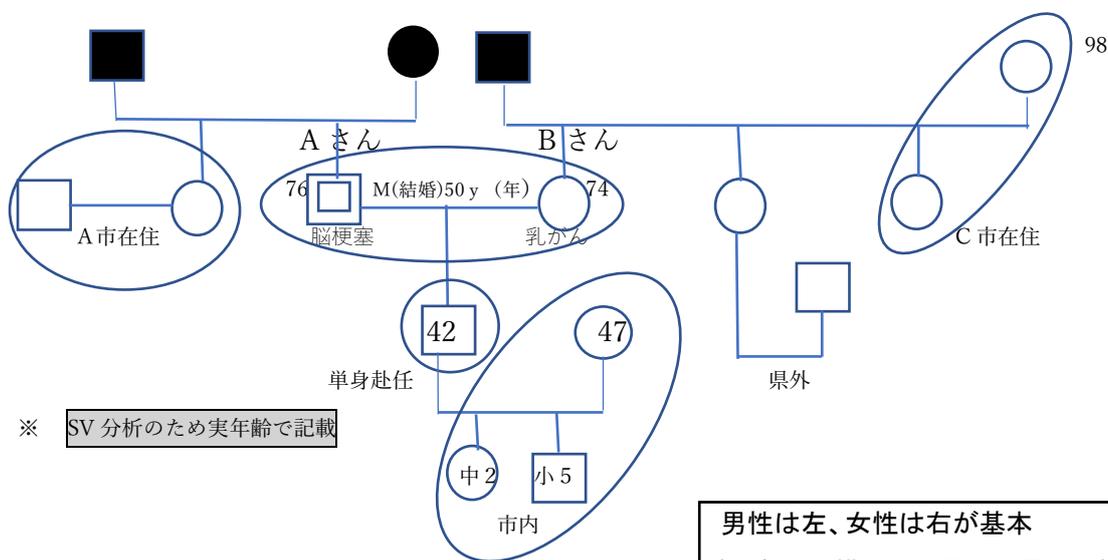
ジェノグラム (ビジュアル・アセスメントツール)

ジェノグラムの描き方例 (mapping 技法)

ポイント

1. 関係の深い2~3世代を描く
2. 性別、年齢、(学年)は基本→※事例検討提出の場合は○十代前半・後半・半ば等で記載
3. 健康状態、服薬状況を描く場合もある
4. 作成/改定者、作図年月日を入れておく→※事例検討提出の場合は作図年月日のみ記載

2021.7.1:愛媛 花子



男性は左、女性は右が基本
幅がなくて描けない場合は反対でも可
名前は外に書いてもよい(匿名化)
IP:index person (当事者、対象者を二重で描く)
左から生まれた順に描く(左から年上)

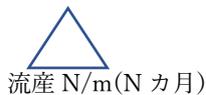
◆ 別居



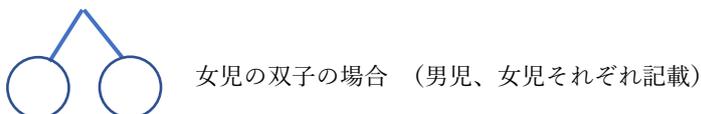
◆ 離婚



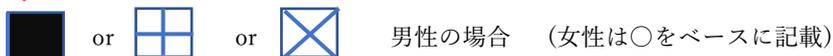
◆ 流産・中絶



◆ 双子



◆ 死亡



エコマップ (ビジュアル・アセスメントツール)

エコマップの描き方例 (mapping 技法)

ポイント

1. 関係を線の太さ、斜線、波線、矢印の向き等で可視化して描く
2. 性別、年齢、職業(学年)は基本→※事例検討の場合は〇十歳代前半・半ば・後半等で記載
3. 支え合いの動線を描き状況把握やアセスメントの作業に活用する
4. 作成/改定者、作図年月日を入れておく→※事例検討の場合は特に記載しない

2021.7.1:愛媛 花子

